

環境を考える

選 択

開講年次：2 年次前期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**:現代の環境問題は加害者と被害者の対立構造が不明快となり、全員が加害者であり被害者となっています。また、環境問題は地域の問題から、地球全体の問題へと変質しました。環境問題は自然科学でそのプロセスやメカニズムを扱う問題であると同時に、社会構造とそのシステムの問題です。そして行政ばかりでなく我々市民ひとりひとりや企業が取り組むべき問題であり、デザインで解決できる方法を考えるべき問題でもあります。この授業はさまざまな環境問題の科学として基礎知識を提示し、社会とのかかわりも重要な側面であるという認識に立って対策と提言をします。

■**到達目標**：①環境問題の原因と発生のメカニズムを把握し、問題を正確に捉える
②環境問題に対する社会生活上の取り組みを考究する

■**担当教員**：

矢部 和夫

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 環境問題の流れ
- 第 2 回 環境管理の二本の柱
- 第 3 回 環境問題の本質的一面、地球の自然と物質
- 第 4 回 市立大学の森1（新緑の季節、フィールドワーク）
- 第 5 回 水の性質
- 第 6 回 大気汚染
- 第 7 回 発生源対策
- 第 8 回 酸性雨
- 第 9 回 水質汚濁
- 第10回 市立大学の森2（木の花の季節、フィールドワーク）
- 第11回 地球温暖化の原因
- 第12回 地球温暖化の将来予測
- 第13回 Countermeasures against global warming (外部講師の予定)
- 第14回 環境保全と生物多様性
- 第15回 都市と環境、市民生活と環境管理

■**教科書**：『環境の科学 われらの地球、未来の地球』三訂版／山口勝三、斎藤紘一、菊地立（培風館）2009年3月発行

■**参考文献**：なし

■**成績評価基準と方法**：定期考査

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験	◎	○		80
小テスト・授業内レポート				
授業態度	○	○	毎回の出席カードへのコメント記入も評価する	10
発表				
作品				
出席	○	○	2/3以上の出席、高出席率はプラスの評価	欠格条件 10
その他				

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：「自然科学を学ぶ」

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：私たちは今さまざまな環境問題に直面しており、日常生活を快適に送る中で環境にさまざまな負荷をかけています。この授業を通じて現在の世界が抱えている環境の問題について、一市民として自分の生活の仕方からその原因・しくみ・対策について考えてみましょう。